

2021年7月11日(日)メッセージアウトライン 「義の道を選びとる決断」

聖書箇所：マタイ7：13～29

タイトル：「義の道を選びとる決断」

テーマ：マタイの福音書5章から7章はイエス様の山上の説教と言われる箇所である。この

ところでイエス様は、パリサイ人や律法学者が人々に教えている口伝律法に対して、モーセの律法の正しい解釈をこの律法の賦与者である神として教えてくださったのである。イエス様はモーセの律法を一度も否定しておられない。むしろイエス様はモーセの律法の成就者として来られたのである。

本日の聖書箇所は、イエス様が、たとえ話をを用いて大切な4つの問題を提起して、各問題の前に置かれた二つの道のどちらを選ぶのかと、当時の人々に、また今の私たちに義の道に至る正しい決断を迫っておられる箇所である

それぞれの決断は私たちを「いのち」か「死」に導く重要な決断となる。

すでにイエス様を救い主と信じている私たちではあるが、もう一度自ら選びとっている道が「いのちへの道」となっているか確認してみよう。

1. マタイ5章から7章の概要（テーマはキリスト者の義）

モーセの律法の正しい解釈と、律法学者たちの律法解釈（口伝律法中心）の違いは？

①5章・・・「幸いについての教え」この世の価値観とは全く異なる

天の御国に入るには、律法学者やパリサイ人の教える義ではだめ

②6章・・・偽善と思ひ煩いという罪について

③7章前半・・・正しく裁くこと、祈り、黄金律（人からしてもらいたいことは何でも、あなたがたも同じように人にしなさい。）

2. 義の道を選びとるための決断——2つの道のどちらを選ぶか？

①狭い門、広い門（狭き道、広き道）

②偽預言者と真の預言者

③心からの信仰告白とうわべだけの信仰告白

④2種類の建築家（賢い人、愚かな人）

3. イエスの教えに驚いた群衆

○律法学者の教えと権威ある者の教えの違い

4. 結論

①クリスチャンになる前にも私たちは二つの道の一つを選んだ

②クリスチャンになってからも「義の道を選ぶ」ための決断は続く。